

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 富士市立田子浦中学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	I パラリンピックの意義や歴史に関する学び III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
2 実施対象者	田子浦中学校1年生
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	①パラリンピックの特徴や発展について学習し、パラリンピックへの興味関心を高める。 ②パラリンピックの価値を多方面から学習することを通して、工夫すればできることが増えることを知ったり、誰もが受け入れられる社会を創る方法を考えたりするきっかけとする。 ③パラリンピックスポーツについて学習し、実際に体験をしてみることを通して、お互いの違いや特徴を生かしながら活動を楽しむ態度を身につける。
5 取組内容	・パラリンピックの歴史や発展についての学習 ・パラリンピックスポーツの種類や競技における工夫についての学習 → 「I'm POSSIBLE」の資料を活用（小学校用と中学校用を併用） 「パラリンピックを知ろう」「パラリンピックスポーツについて学ぼう」「車いすバスケ香西選手について知ろう」「ガイドランナーを体験しよう」の題材で授業を実施 ・パラリンピアン（永尾嘉章選手）の講演会 →日本財団パラリンピックサポートセンター「あすチャレ！スクール」の事業で、車いす陸上の永尾嘉章選手の講演会を行った。



	・パラリンピックスポーツ、障がい者スポーツの体験会 →障がい者サッカー協会の方を講師に招き、アンプティサッカーやゴールボール、視覚障がい者のサッカー、ボッチャの体験学習を行った。  ・パラリンピックスポーツ、障がい者スポーツの競技会の企画運営 →パラスポーツや障がい者スポーツの中から、班ごとに競技を選び、その競技についての調べ学習、その競技でのクラスレクの企画を行い、プレゼンテーションを行った。プレゼンの内容から、クラスごとに投票を行い、各クラスごとに2種目ほど、考えた企画でレクリエーションを行った。ボッチャ、サウンドテーブルテニス、シッティングバレー、フライングディスクが、クラスごとに行われた。 
6 主な成果	・東京で開催されるオリンピックやパラリンピックに、多くの生徒が関心を持った。 ・障害のある人が、スポーツの最前線で活躍したり、スポーツを楽しむことができたりすることを学習した。 ・実際に様々なスポーツを見たり体験したりして、その面白さに触れることで、学習への意欲が高まり、グループ学習が大変よいものになった。教員の予想を上回る工夫や、企画が出てきて、クラスでのレクも盛り上がった。 ・障害があっても、様々な工夫をすれば、誰もがスポーツを楽しめたり、皆でスポーツを楽しめたりすることを学習したことが、グループ学習での多くの工夫にもつながった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・できる限り机上での学習ではなくて、体験や活動を取り入れた。 ・体験や活動の中で、互いに関わる必要のある場面を多く設定した。 ・生徒の発想を生かすために、調べ学習や活動内容に柔軟性を持たせ、生徒の思考が広がるようにアドバイスした。
8主な課題等	・体験会や講演会を企画したいが、学校の都合と相手の都合の調整ができるのがギリギリになってしまう。 ・数か月単位で計画を立てるが、生徒の反応や生徒の意欲によって、計画を柔軟に変えていきたい。 ・予算をいただいているが、使い方に制限があり利用が難しかったので、有意義に使える方法がもっとあったのかもしれない。
9来年度以降 の実施予定	未定 例年本校では、2年生での職場体験学習を行っており、地域の企業や店舗と

	のつながりを考えると、来年度はこの時期の学習を、職場体験学習をメインに進めていくことになる。そのため、今年度と同様の形で学習をすることは難しい。しかし、生徒の反応が予想以上に良かったことと、2020年に東京オリンピックを控えていることを考えると、今しかできない、今だからこそ意味のある学習だと思うので、継続して続けていく方法はないかを模索中である。
--	---